

今、オフィスでも女性の「甘えられない病」が蔓延!?

お話を伺った方

小倉 広さん



リーダーシップ開発に特化したコンサルティングや研修を行う。『任せる技術』『自分でやった方が早い病』他、著書多数。

「人が減る一方で仕事は増えるマルチタスク時代、上手に甘える技術は必須のスキルです。仕事における『甘え』とは、上手に周囲の人に頼るということ。教えてもらう、分担する、任せる…と言い換えると分かりやすいですが、上手に甘えられない人は、仕事を『自分』のものだと狭い視野で捉えがちです。しかし、どんな仕事も『自分』に渡されてはいるけど、正確には『会社』のもの。一人でこなすのは無理と思っただ時点で、早めに上司に相談したり、仕事の分担を依頼しましょう。『自分』が甘えるのではなく、『会社』の代表として相談、分担をし、目標達成を最優先するのです。また、後輩や仲間にも甘えることで人材が育つ、チームワークが築かれる等、会社にとってのメリットも忘れてはなりません」

甘え下手な女性は視野が狭い?

身に覚えが!? 仕事の甘えQ&A

Q 仕事にはそれぞれ役割があるので、頼ることで相手の仕事が増えて迷惑かも…と考えるや頼れない。その結果、一人残業がザラに。(29歳・営業)

A 「できない」と伝えるのも仕事のうち。上司の仕事を奪っていることにも。

「頑張りが“木を見て森を見ず”状態なのが残念。一人で抱え込むことで、自分が疲れるだけでなく、後輩が育たない、チームワークが築けないなど、職場全体の益を損ねていることを自覚しましょう。全体の調整をする上司の仕事も奪っていることにもなります」

Q 職場でかわいがられているのは、トラブルをこしつづも甘え上手な人たち。私はといえば、自分で言うのもなんですがいわゆるできるタイプ。人に迷惑をかけずに頑張っているのに、なんだか損している気がして憂鬱です。(30歳・IT系)

A 甘え上手でかわいがられている人というのは、ちゃんと“お返し”しているはず。

「甘え上手の多くは、見えないところで借りを返しているもの。決して甘えるだけではありません。返し方は作業だけとは限らず、上司を気分よくさせたり、チームの雰囲気や和らげるのも返し方の一つ。肩肘張って借りを作らないようにする以外の方法もあります」

Q 職場では中堅です。でも、押し付けるだけ押し付ける上司、仕事を分担できる後輩もいない。病院に行く時間すらとりづらくて…。(29歳・営業)

A 甘えられない会社・部署は長続きしない可能性大。

「新入社員の採用数を絞る会社に多い光景ですが、病院に行く時間がとれないほどなら、転職や異動を視野に入れたほうがよいかもかもしれません。誰にも頼れないということは、システムが破綻しているということ。そういう会社や部署は、長続きしないことが多いです」

この病気の処方箋



“甘えること”は、目的達成の手段であり義務でもある。

「どんな仕事にも“顧客満足”という目的があり、目的の達成のためならば、仲間相談したり分担してもらい“甘え”は立派な手段といえます。迷惑をかけることを恐れるあまりに“甘え”を避け、一人で抱え込んでパニックするような働き方は、仕事の目的を見失っている状態。仕事は、個人の修業でも勝負でもありません。当然ですが、個人的なサボリなどのための甘えは問題外です」



借りは返せばよし。しかも、その相手に直接でなくてOK。

「“甘え”をネガティブに捉える人は、“借りを作らない”という理由がほとんど。しかし、人は生まれた時から貸し借りを作りながら生きているもの。そこを素直に認めるところから始めましょう。借りたら返せばいい。後輩に教えたり、いい仕事ぶりでも会社に還元したり。本人に直接返さなくてもOK。借りた先輩や上司でなく、広く社会や職場全体に恩返しをすればいいのです」



若手のうちは“食べ尽くす青虫”、30代になったら“蝶”であれ。

「求められる“甘えのスキル”は、年代によっても変わります。若いうちは、食べたい時に葉っぱを食べ尽くす青虫のようにみっともない働き方でOK。無理にチームのことを考えるよりも、自分の数字を達成する貪欲さが重要。しかし、仕事を覚えてリーダー格になったら働き方をシフト。美しく蜜を吸いながら、花の受粉活動を助け人の役に立つ、美しい蝶のような働き方を目指して」

